

平成30年度 分科会施策の管理シート

分科会名	長寿サポート分科会	会長	多田 敦彦
------	-----------	----	-------

重点項目	高齢者の在宅生活を支える仕組みづくり	数値目標	【達成時期】平成30年度末 【目標値】連携書の作成。24時間緊急電話相談の登録者191人の増加。	分科会事務局	長寿支援課
------	--------------------	------	---	--------	-------

期 初(前年度末まで)	期 中(~9月)		期 末(~2月)・・・進捗・評価は見込で可		次年度へ						
	分科会事務局	分科会の意見	分科会事務局	分科会の評価							
【施策名・概要】	【実行する内容】	【選定した理由】	【目指す成果】	【進捗状況】	【見直し・課題・助言等の内容】	【実績及び成果に係る自己評価】	【評価】	【達成度・成果について】	【評価】	課題、進捗管理継続の要否等	
1	生活支援体制整備事業の推進 新組織を立ち上げず地域の既存団体等との連携で「協議体」の議論を展開し、住民に押し付けにならない仕組みを構築する。 生活支援コーディネーターは地域の団体等と連携して情報提供を行い、必要な資源・ニーズにつなぐ役割を果たす。	生産年齢人口が減少し専門職の確保は困難となるが、高齢者の生活支援ニーズは増加するため、地域の助け合い活動を支援する体制を構築する必要がある。	地域の既存団体(文化・運動サークル等)に働きかけ、75歳を超えても構成員が離脱しない仕組みの構築など緩やかなルールで地域の支え合い体制を確立。 協議体の議論を展開する団体数を年間6団体ずつ増やし、旧小学校区単位(17~18区域)の「協議体」体制を3年間で構築。								
2											
3											
4											
5											

- (注意事項)
- ① 重点項目ごとに、必ず管理シート1枚以内にまとめること(進捗管理する施策の選択等)。  
施策の選択の際は、重点項目の目標達成にどの程度貢献するのかも考慮すること。
  - ② 目指す成果の項目には、量的把握が可能なものは全て計量化・数値化することとし、不可能なものについても、望ましい状態や 結果、目標が達成された場合の状態等を具体的に明示すること。
  - ③ 達成度・成果の評価においては、施策の実行に当たってのプロセスも考慮し、総合的な視点から判断を行なうこと。  
評価の基準については、別紙の「施策の実績・盛夏に係る評価の基準」を参考にすること。
  - ④ 各施策の詳細(具体的な取組等)について、別に資料を添付しても良いこと。

特記事項	
------	--